

## 日本気象学会100年記念「天気」特別号の内容についての

## アンケート調査の結果報告

## 「天気」編集委員会

「天気」編集委員会では、日本気象学会100年記念「天気」特別号の内容について会員の皆様にアンケートをお願いしました (Vol. 27, No. 7) が、これに対して112通の回答がありました。

今回の調査では皆様から自由な御意見も数多く寄せていただきました。これらの御意見は、今後の編集に活かしたいと考えております。ここに概要を報告します。

## 〔1〕アンケート回収総数 112

(北海道 5, 東北 11, 関東 39, 中部 12, 関西 30, 九州 12, 沖縄 3)

〔2〕気象学会100年記念関係のレビューの原案については、賛成 92, 反対 0, 無記入 20 でした。

(a) レビューの希望テーマとして多かったものは次の通りです。なお、アンケートでは、1位～5位まで順位をつけて記入していただきましたが、ここでは順位に関係なく集計してあります。

- |                       |       |
|-----------------------|-------|
| ① 長波の発見と数値予報          | (60通) |
| ② 太陽活動と気候変動           | (50)  |
| ③ 集中豪雨                | (45)  |
| ④ ジェットストリームの発見と低気圧家族  | (35)  |
| ⑤ 積雲対流のパラメタリゼーション     | (31)  |
| ⑥ CISK と台風の発生         | (27)  |
| ⑦ 大気境界層               | (21)  |
| ⑧ 気象観測(レーダー、ライダーも含めた) | (17)  |
| ⑧ 三細胞説                | (17)  |
| ⑩ 気象災害                | (16)  |
| ⑩ 大気汚染                | (14)  |
| ⑩ メソ気象                | (14)  |
| ⑬ 数値シミュレーション          | (13)  |
| ⑬ 人工衛星(気象衛星)          | (13)  |

- |                  |       |
|------------------|-------|
| ⑬ 氷晶降雨原因説と人工降雨   | (13通) |
| ⑬ 突然昇温           | (10)  |
| ⑬ 温帯高低気圧         | (10)  |
| ⑬ 雷雲内の電荷発生説      | (9)   |
| ⑬ 海洋気象           | (9)   |
| ⑭ 気象教育           | (8)   |
| ⑭ 大気化学(惑星気象も含めた) | (8)   |
| ⑭ 大気放射           | (8)   |
| ⑭ 熱帯気象           | (7)   |
| ⑭ 大気大循環          | (7)   |
| ⑭ 応用気象           | (7)   |

## 以下省略

(b) レビューの希望テーマとして、特に第1位としてあげられたものは、次の通りです。

- |                      |       |
|----------------------|-------|
| ① 長波の発見と数値予報         | (21通) |
| ② ジェットストリームの発見と低気圧家族 | (17)  |
| ③ 太陽活動と気候変動          | (9)   |
| ④ CISK と台風の発生        | (8)   |
| ⑤ 集中豪雨               | (6)   |
| ⑤ 三細胞説               | (6)   |

## 以下省略

(c) レビューのうち、特別号(4月号)のテーマとしてふさわしいものとしてあげられたものは次の通りですが、この質問については、記入のなかったアンケートが半数以上(60通)ありました。

- |                      |       |
|----------------------|-------|
| ① 長波の発見と数値予報         | (21通) |
| ② ジェットストリームの発見と低気圧家族 | (8)   |
| ③ 太陽活動と気候変動          | (6)   |
| ④ 大気汚染               | (4)   |

## 以下省略

〔3〕各地方における重要な気象現象をとりあげることについては、賛成 89, 反対 10, 無記入 13 でした。

とりあげた場合の希望テーマとしてあげられたのは次の通りです。

- |        |       |
|--------|-------|
| ① 局地風  | (13通) |
| ② 集中豪雨 | ( 8 ) |
| ③ 台風   | ( 4 ) |
| ③ 豪雪   | ( 4 ) |
| ③ 海陸風  | ( 4 ) |
| ③ 北東気流 | ( 4 ) |

以下省略

[4] その他の御意見として自由に記入していただいたものは次のとおりです。誌面の都合で要約してありますが、寄せられたものをすべて記載しましたので、これに関する御意見等がありましたら委員会までお寄せ下さい。今後、「会員のひろば」等を通じて御意見の具体化に努力したいと考えております。

(a) 100年記念号に関係した意見

- ① 各論より総論が特別号にふさわしい。テーマ別に原著論文をまとめた選集を発行してほしい。
- ② 1982年1～12月と限定せずに原案に挙がっているものを順次特別企画として欲しい。
- ③ 100年記念であるからすべての分野について長期間にわたってとりあげるのも一方法。例えば、観測がどのように変わったか、気象災害がどう変化したか、局地気象の分野がどう発展したか。
- ④ 記念号にふさわしいテーマとして、多少お話的になってもかまわないから長期予報の現状とその未来とか、地球は寒冷化しているのか温暖化しているのかという気候変動についてを希望。
- ⑤ 企画は、分野別レビューより、気象学全体からみて、歴史的にどうであったか、どう変わっていったかを扱った方がよい。
- ⑥ 担当者は特別号の他は第1級の研究者でなくとも、ていねいな解説をする人をお願いしたい。
- ⑦ 過去を多く振り返るよりも、前を見通したレビューを期待する。
- ⑧ レビューは個々の題目別の他に総論があればよいと思う。
- ⑨ レビューの内容は、第1は日本が世界をリードしているもの、第2は外国からの研究が日本でどう定着したかというものを考えて欲しい。外国人が書いても日本人が書いても同じ様なレビューは不可。
- ⑩ レビューは日本語で書かれたものもとり入れるよう

に努力を望む。

- ⑪ レビューには、現在の問題点と今後の方向づけも加えた方がよいと思う。
- (b) 100年記念号あるいは普通号の内容に関する意見。
- ① 関連分野で著しく発展があり、気象学研究の人は知らない事項、例えば流体力学・統計学など。
  - ② データ処理法、文献整理法、災害気象の機構とその予防法。
  - ③ マスコミにおける天気予報のとり上げ方の変遷。
  - ④ リモートセンシングによる気象観測の将来展望と気象学に及ぼす影響。
  - ⑤ 海陸風よりももう少しスケールの大きな規模での局地風について。
  - ⑥ 学会発足当時の状況、メンバー、エピソードなど。
  - ⑦ 気象官署の紹介とその観測値の代表性・気候変化について。
  - ⑧ 地味なテーマで実用的観点からの確率予報。
  - ⑨ 大気汚染は外国の方が進んでいるが、外国の情報は入手しにくい。特別号でレビューしてもいいし、毎月この種の最新情報の記事。
  - ⑩ レビューとして気象衛星資料による地球上の放射収支、チベット高気圧と小笠原高気圧、風の測定論。
  - ⑪ メソスケールのナウキャストに関連した各論的レビュー。
  - ⑫ 気象学と世相というテーマで科学史家やジャーナリストなどに執筆を依頼していただきたい。例えば日本海海戦と岡田武松予報官。
  - ⑬ ソビエトの気象学者の論文紹介。
  - ⑭ 「ひまわり」打ち上げから運用の状況、これから得られた気象学上の業績、今後の展望気象学史の編さん等、気象学史史の掲載。社会と密接な関連テーマ、例えば豪雪の予測と気象業務。
  - ⑮ 大気汚染の実態、変動、予測手法の展開について。
  - ⑯ 夏の雷と冬並びに高緯度地帯の雷について。
  - ⑰ 山岳気象は観測資料が不整備であるが、レジャー登山の普及により人命にかかわる大きな問題となってきた。
  - ⑱ 岐阜県美濃地方の夏の熱帯感と海風の影響やヒートローとの関係など不明なことが多い。
  - ⑲ 学会へ寄贈された図書等（特に外国からのもの）の紹介があれば、地方にいる者として NEWS を仕入れることができる。

- ⑳ “Weather” 誌に載っているようなトビックス的なものを英文のまま転載するのも面白い。
- ㉑ 最近10年間の「気象研究ノート」で解説・紹介されていない内容を充実した形で。
- ㉒ 世界的に見て日本の気象学の特徴、欠けている分野などの解説を希望。
- ㉓ 地方における事例研究や話題等をもっと「天気」誌上に取り上げて欲しい。
- ㉔ 論文選集の発行を考えて欲しい。
- ㉕ 社会と密接な関連テーマに取り組んで欲しい。例えば豪雪の予測と気象業務。
- ㉖ 入門書の解説書が見当らず困っている。他分野の人にも良く理解できるテキスト類を出して欲しい。
- ㉗ 最新のものを取り上げるのもいいが、過去の業績の中で特筆すべきものも紹介して欲しい。
- ㉘ 気象教育の不足を感じるなのでこのことを取り上げて欲しい。
- ㉙ 例えば、『観測であればどのような現象を観測するのかそれはなぜか』というように「なぜ」ということを重視して欲しい。
- ㉚ 大気化学について普及講座をお願いしたい。
- ㉛ 気象現象の記録とその研究調査へのガイド的内容にして欲しい。
- (c) 「天気」のレベルについての意見
- ① 地方にいる者は高度な知識がないので、許す範囲内でわかりやすく解説して欲しい。
- ② 「天気」の内容をもう少し落として欲しい。
- ③ 「天気」はもう少し易りよい方が一般的。
- ④ かつて“Journal of Meteorology”と“Weatherwise”とが相呼応して気象学の発展に寄与したように、現在の「天気」と気象協会が発行している「気象」の中間位までやさしくして欲しい。
- ⑤ 「学会だより」をもう少し簡潔なものに。
- ⑥ 新しい分野の気象学にふれることができないでいる。調査の暇も少なくもう少し分りやすい実用的な内容の本であって欲しい。又、気象教育に十分力を入れて欲しい。
- (d) その他
- ① 「天気」は気象庁の単なる機関誌的取扱いの場ではないので、もう少し自由に提案したりして気象業務をリードする方向で。
- ② 「天気」は大変バラエティーに富んでいて良い。
- ③ 現在の基礎コースと入門講座は好評である。

(アンケート集計担当及び文責 饒村 曜)